講義名	対2)ビジネス会計					授業形態	
担当教員	孫　美灵	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 １時限				
		単位数	2	履修開始年次	２年生	ナンバリング	

主題と概要

企業の実態を把握するためには非財務情報の分析も当然必要ですが、財務情報を抜きにして企業の経営状況を語ることはできません。財務情報もしくは会計情報は企業の実態を説明する一種の言語ということで、しばしば「ビジネス言語」と言われています。国際人として活躍するには英語や中国語などの語学力を身に付ける必要があるのと同様に、ビジネス・パーソンとして活躍するには「ビジネス言語」である会計の知識を身に付ける必要があります。
会計は入口のところから専門用語の壁があるので、難しく考えられがちですが、その専門用語の壁さえ乗り越えれば、会計の面白さが実感できると思います。
本講義では会計の役割、日本の会計制度と会計基準を巡る近年の国際的な動向の概要、財務諸表の基本的な仕組みについて解説します。

到達目標

・会計制度は重要な社会的インフラであることが理解できます。
・代表的な財務諸表の基本的な仕組みが理解できます。

提出課題

ほぼ毎回の講義で課題の提出を求めます。課題は仕訳、財務比率に関する計算問題が多く出題されます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題回収後は、解答と解説を配布します。内容によって口頭で再度解説します。

評価の基準

平常点（課題ほぼ毎回）60%、定期試験40%の割合で評価を行います。

オンデマンドクラスの受講生は、オンラインで定期試験を実施します。

履修にあたっての注意・助言他

本講義は簿記の基本的な知識を有することを前提に講義を進めます。「基礎簿記」を履修済み、「商業簿記Ｉ」を履修済みもしくは履修中であることが望ましいです。

教科書

.使用しない.				

参考図書

.財務会計・入門（第14版）.	桜井 久勝・ 須田 一幸	有斐閣	1980	9784641221765
.ケースでまなぶ財務会計 第8版: 新聞記事のケースを通して財務会計の基礎をまなぶ.	永野 則雄	白桃書房	3080	9784561352198

その他

＜プリント資料＞
講義中、配布します。

授業計画

第1回　ガイダンス・意思決定と会計情報
第2回　会計の役割
第3回　日本の会計制度
第4回　会計基準を巡る国際的な動向①－IFRSを導入するメリット
第5回　会計基準を巡る国際的な動向②－EUとアメリカにおけるIFRSへの取り組み
第6回　会計基準を巡る国際的な動向③－日本、韓国、中国におけるIFRSへの取り組み
第7回　貸借対照表①－簿記の五つの要素
第8回　貸借対照表②－貸借対照表の区分表示
第9回　貸借対照表③－ケース
第10回　貸借対照表④－資産の評価
第11回　貸借対照表⑤－安全性分析
第12回　損益計算書①－損益計算書の区分表示
第13回　損益計算書②－収益の認識
第14回　損益計算書③－費用の認識
第15回　損益計算書④－収益性分析

以上の計画は、講義の進み具合によって少し前後する可能性があります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に配布した資料や指示に従って予習（2時間）し、講義終了後は当日内容の要点を整理し、理解を定着させるために復習（2時間）を心掛けてください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

卒業認定・学位授与の方針（１）－①との関係：会計の初歩的な知識になるため業界の動向や問題点を理解するまでには至らないが、会計制度の必要性や財務諸表の基本が理解でき、財務的な視点から問題点を分析することの重要性が理解できます。

卒業認定・学位授与の方針（2）－①との関係：企業経営における重要な目的の一つに利益の追求があげられるが、利益を計算する仕組みについて理解することができます。
卒業認定・学位授与の方針（2）－②との関係：初歩的なレベルではあるが、財務的な側面から具体的な改善策や解決策の提案ができます。

卒業認定・学位授与の方針（4）－①との関係：企業経営における重要な目的の一つに利益の追求があげられるが、利益を計算する仕組みについて理解することができます。
卒業認定・学位授与の方針（4）－②との関係：財務的な側面から企業が直面するグローバルな問題点について理解することができます。

卒業認定・学位授与の方針（5）－①との関係：企業の財政状態、経営成績について初歩的な分析をすることができます。
卒業認定・学位授与の方針（5）－②との関係：初歩的なレベルではあるが、財務的な側面から企業が直面する問題や強みを発見することができます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向授業の実施：講義中、教員からの質問に対し自らの考え方を整理し、発言する機会はほぼ毎回あります。

ICTの活用：TeamsやZOOMを利用します。

実務経験の有無及び活用

実務経験あります。
実務経験が本講義の内容と直接関連するわけではないですが、受講生に刺激になると思われるエピソードがある場合は適宜紹介していきたいと思います。

備考